

小説『泥流地帯』『続泥流地帯』

映画化プロジェクト

連携事業 **かみふしの** × 三浦綾子記念文学館

第3号
2018.9

内閣府「第45回地域再生計画」認定

発行・「泥流地帯」映画化を進める会事務局（北海道上富良野町 企画商工観光課 企画政策班 電話 0167-45-6994）



上高祭と共同開催した企画展「十勝岳を仰ぐ町・復興への軌跡『泥流地帯』」のひとコマ

いよいよありますように

三浦綾子の小説『泥流地帯』『続泥流地帯』の映画化推進に向けて、その取り組みに協力する「映画化応援隊」として活動する上富良野高校の生徒5名による朗読劇公演が、10月20日（土）午後2時から、三浦綾子記念文学館（旭川市神楽7条8丁目）にて開催されます。

上演するのは『いいこと、ありますように』。小説『泥流地帯』『続泥流地帯』を知るための物語で、教師役1名と生徒役4名の計5名で演じます。公演時間は約45分。

この劇に取り組む上富良野高校の生徒5名は、今年4月から活動を始め、富良野GROUP所属の俳優・森上千絵さんの指導を受けて練習を続けてきました。7月14日には上高祭で初演し、10月に開催される高文連文芸研究大会のプログラムとして、「かみん」で全道から集まる高校生たちの前でも上演する予定です。

この取り組みを、原作を所管する三浦綾子記念文学館でもぜひ紹介したい、そして朗読劇を上演してほしいという熱いリクエストが寄せられ、開催が決まりました。高校生たちの取り組みをぜひ、ご覧ください。

入館料（大人700円・学生300円・小中高無料）がかかります。

『いいこと、ありますように』あらすじ

教師生活を始めて数年のユカリは、地元の高校に赴任したのをきっかけに、自分なりの総合学習に取り組みようとしていた。地域の歴史をどうするか、そこに住む人の姿にどう接するかを考えていたとき、友人の紹介で小説『泥流地帯』と『続泥流地帯』を知る。この町が舞台となった物語であることを知ったユカリは、生徒たちとこの本を読んでみようと思いつく。早速、ソウタ、リョウイチ、カナ、ハジメの4人を集め、読んでもらうことにした。彼らのディスカッションは、ユカリの想像を超えて楽しく豊かなものとなり、ふるさとを捉え直す機会となっていく。



初演を熱演した「応援隊」の生徒たち

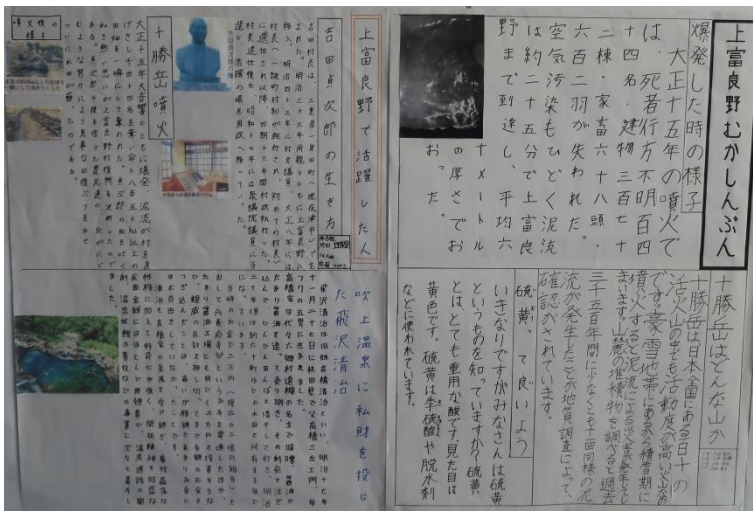
7月14日上高祭より

上中学校祭に三浦綾子さんの小説「泥流地帯」が出現！！

上中1学年では、「表現の工夫」と「仲間と高め合う」を意識して、学校祭の取組を進めてきました。「展示」では、映画化を目指している三浦綾子さんの小説「泥流地帯」を題材に、調査活動を進めるなかで、上富良野をより深く知るという活動に取り組みました。

次の6つのチームに分かれて、調査活動を進めました。

- ① 「泥流地帯」紙芝居・絵画作成
- ② ジオラマ作成
- ③ 三浦綾子さんを調査
- ④ 地質調査
- ⑤ CM作成
- ⑥ 上富良野歴史調査



●●● 近日の催し物 ●●●

10月20日（土）三浦綾子記念文学館にて（旭川）（入館料のみ） 午後2時から
 11月3日（土）社会教育総合センターにて（無料） 午前10時30～・午後4時～

泥流地帯「応援隊」 朗読劇 ～いいこと、ありますように～
 上高生5名による朗読劇（約45分）が開催されます。